



梅雨の晴れ間。6年生が園芸の授業で寄せ植えした鉢が玄関脇に彩（いろどり）を添えています。

つゆをいっぱい含んだ花や葉がキラキラと輝き、子どもたちの登校を見守っています。

\*\*\*\*\*

## \*クラスだより\*

### 横浜市見学（5年生）

郷土学の一環として、例年4年生の終わり頃に行っている横浜市見学遠足ですが、今年度は5年生が5月22日に担任の引率、内村先生の付き添いで、初夏の日差しのなか行ってきました。

通勤ラッシュがまだ残っている時間帯に電車に乗り込んだ5年生は、関内駅で下車。駅を出たところで「今日は一日、新聞記者になったつもりで取材するように。学校に帰ったら、新聞を作りますよ。」と予告され、少し緊張した面持ちでメモ帳とボールペンを手に出発しました。

まずは、4年生で学んだ「吉田新田」があった伊勢佐木町を左に見ながら、かつて、外国人居留地と日本人町を分けた「吉田橋」を渡りました。ここに関所があり、これより海側を「関内」と呼んだそうです。新米記者さんたちは、立ち止まり、説明を聞きながらとにかく見た物、聞いたことを手当たり次第にメモしていききました。

馬車道を眺めた後で、市庁舎前を通り横浜スタジアムへ。スタジアムの横には中華街の入り口があり、北の方位を示す「玄武」が描かれた門をスケッチしました。

横浜は開港して150年以上もたつ、古い港町です。関東大震災や太平洋戦争など、幾度となく災禍に見舞われながらも、その遺構を留めた「横浜開港記念会館」はいまだ美しい当時の姿を見せています。この建物の塔は「ジャックの塔」と呼ばれ、県庁舎の「キングの塔」、横浜税関の「クイーンの塔」とともに「横浜三塔」のひとつとして横浜っ子に親しまれています。5年生も、古い中にも威厳のある美しさを感じ取っていたようで、厳かな面持ちで見学していました。

今回、見学に時間をかけたのは、横浜開港資料館です。ここは、かの有名なペリーが江戸幕府と日米和親条約を交わしたといわれる場所の跡地です。5年生には「一番心に残る展示物を詳しく記録しておくように」と指示して自由時間にしました。それぞれが思い思いの展示物の前に陣取り、難しい漢字や文章に苦労しながらも自分なりに理解し、メモを取っていました。

お昼になったので、お弁当をいただく予定だった「大棧橋」に向かおうとすると、なんと海の上の空は全面真っ黒。怖れていた雷雨が襲ってきました。大粒の雨を振

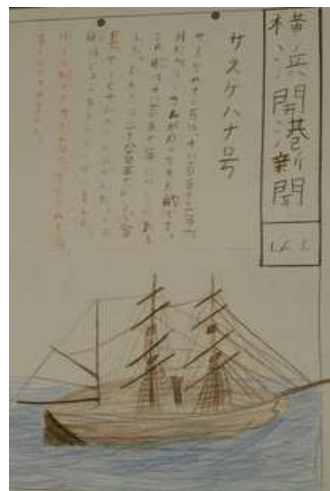
り払いながら「くじらのおなか(大棧橋旅客ターミナル)」に駆け込み、危機一髪のところでお弁当を食べることが出来ました。新米記者さんたちには、この「雷雨との遭遇」がこの日一番の大ニュースだったようです。

お弁当が終わると、雨宿りの間子どもたちは船のデッキのような形の外廊下を使っての速歩き競走を發明し、楽しんでいました。子どもというものは、遊びのためならいつでもどんな環境でも余った時間を有効に使えるようです。

そろそろ帰らなくては、と思つたところに具合よく雨は上がり、5年生はみなとみらい方面を経由して汽車道を歩き、日本丸を横目に桜木町へ向かい、帰途に着きました。

翌日は見学(取材)のメモを基に新聞づくりに励んだ5年生。手作り新聞が壁いっぱい張り、次なる学びへと向かっていきます。

(5年生担任 長井麻美)



## 校内研修（手仕事）

5月10日（土）明るいさわやかな陽射しの中、新しい保護者の皆さんとの顔合わせも兼ねて春の校内研修を行いました。

今回のテーマは“手”！手仕事を中心軸に置き、この教育におけるさまざまな手の取り組みを紹介しながら子どもの成長に光を当てていきました。

ファンタジーに導かれ動き始めた幼い手がひとつひとつの手の仕事を経てどんどん巧みに動くようになっていきます。

幼児期に手足を動かして育ってきた子どもの“やりたい”という衝動的な意志は7歳を過ぎるころから“やり遂げる”という意識的な意志に変容していきます。だからこそこの時期をスタートに一つひとつを積み重ね、間違えたら戻ってやり直す“編み物”の導入をしていきます。

3年生ごろになると子どもたちの内面に変化が生じます。これまで世界と一体であった子どもたちが孤独や不安を感じます。エポックでは自分を守る覆いになる家づくりを行い、手仕事では帽子を作ります。



また4年生のころには世界との分離はもっと明白なものになり、9歳の危機を乗り越える助けとなるクロスステッチ×を行います。私と世界は違う、外の世界から自分を守る。オイリュトミーの「e」です。



そのようにして学年が上がるごとにエポック授業をはじめ、あらゆる教科で子どもの成長に沿った学びが行われ、子どもたちは意志の土台の上に思考の芽を育んでいきます。

木工や鍛金を行うころには、さらに子どもの手は巧みに成長していき、同時に理解力も増してきます。

そして9年生劇や学園祭では計画・実行する力が確実に育ってきています。

人間が人間であること。動物と違って人間が優れているのは“手”であること。子どもたちはその手が働きもので素晴らしいものなのだと知っています。失敗しても、次はうまくやってみよう。最後までやり遂げようという意志は行動する力へと変わっていきます。

「手仕事は人間の意志を思考行為の中で働かせるように準備するものです」 by Rudolf Steiner

子どもの前に立つ教師は日々子どもたちとの生活の中で、そう、この学びは本当に素晴らしい！こんなに子どもたちの目が輝き、子どもたちの心が響き合うのだ！と実感しています。この実感を伝えるにはどうしたらいいか…今回は特にこの学園での教育が子どもたちの成長に沿った形であらゆる教科に於いて有機的に繋がっていることを伝えたいという思いで企画しました。

保護者のみなさんが熱心に話に耳を傾け、また生き生きとワークも楽しんでくださったことを心から感謝いたします。

（手仕事専科 柳本瑞枝）

### \*参加者の感想より\*

9年間の学びの中で手仕事と子どもの体や心の成長が上手く結び付けられていること、手仕事と他の教科との関連性がたくさんの先生方のお話を通して聞くことで実感できました。よい研修を受けることが出来てラッキーでした。

昔はどの家庭でも生活の一部として家族や周りの人々から手仕事を学び、コミュニケーションを取りながら習得していたものでしょうか、それが切り離され、現在では趣味的なもの、芸術的なものとして高められているように感じます。豊かな時代に生きているように思う反面、少し寂しい気もします。先生方には子どもたちのために授業を組み立てて心を砕いていただいていることに感謝しております。

\*\*\*\*\*

手仕事が意志と非常に関わりが強いことを改めて感じました。一方で感情とも強い関わりがあるとあります。手を自分の意識のもとに、しなやかに動かすことは意志と感情の充実した形成につながる。デスクでの勉強のみとか、TVゲームとかが如何に子どもによくないのか、改めて分かりました。

## ～公開講座レポ～

### \*豊かに育つ子どもたちの話\*

6月1日(日)アートフォーラムあざみ野で開催された公開講座『豊かに育つ子どもたちの話ー7歳から15歳を共にした9年間の日々ー』に出かけ、講師を務めた長井麻美先生のお話を聞いてきました。

今年の春、9年間担任として成長を見守って来た子どもたちの卒業後、本講座で話をすることが「9年間の想いの浄化になるのでは」と言う長井先生。子どもたちのエピソードを話すたびに、きっと脳裏には鮮やかにその時の子どもたちがよみがえっていたのでしょうか、愛おむような表情がとても印象的でした。

「一期生の担任になる時に、自分ができなければ横浜シュタイナー学園は終わってしまうと、9年間の責任の重みを感じた」と、今まで保護者にも話したことはなかったと当時の心境を笑って話してくれましたが、9年間という時間の長さや重みは私の想像など遥かに越えたものでしょう。

1年生から、成長の段階に応じて子どもに響くアプローチをするシュタイナー教育の学びを説明しつつ、その時々や子どもたちの作文を披露するなど、子どもの成長が点ではなくて9年間の線となって見えてくるような講座でした。

まだ3年生の保護者である私にとっては、あの魅力的な卒業生たちのように成長する娘の姿が想像できません。しかし、当然ながら彼らにも同じように幼い日々があり、先生方のたゆまぬ努力と大きな愛情に支えられて成長してきたのかと思うと、シュタイナー教育への信頼と、勇気をいただいたような気持ちになりました。

この日参加していた方々もとても熱心にお話を聞いていました。今回の講座はシュタイナー教育についてたくさんの方に知っていただく良い機会だったと思いますし、今後もぜひ継続していただきたいと思います。(3年生保護者 中島美穂)



### \*高等部説明会\*

シュタイナー学校高等部の教員・在校生が、当校を訪れて高等部の説明会を行ってくれました。

- ・東京賢治シュタイナー学校 (5月10日(土))
- ・学校法人シュタイナー学園 (5月31日(土))

本学園は9年制なので、義務教育の年齢を超える生徒は、全員進路を選択することになります。第2七学期からの12年間、シュタイナー教育での学びの継続が望ましいという理想を持ちつつも、学内に高等部がない中、両校の出張説明会は何より心強い繋がりです。

シュタイナー学校の年齢相応の教育としての集大成ともいえる高等部の4年間\*の学びを、両校の特色も含め、写真や実際のノートなどを使って丁寧に説明してくれました。ものごとの本質、人間の核に迫る授業や実習体験が目白押しで、なんと充実していることでしょう！！

暗記モノの定番と思っていた三角関数…。

10年生の「測量実習」では、測量のなんたるかを体験します。計算が合わなくて日暮れまで繰り返し計測、夜はどこか間違えたか見直して翌朝に備えた、などという苦労話が生徒たちの口から次々に楽しそうに語られていました。

今年進学を控えた保護者からは積極的な質問もあり、学校生活や先生とのかかわり、部活動、同好会、生徒会などの活動について丁寧に話していただきました。単なる活動紹介ではなく、なぜあるのか、これからどうなっていくのかが、生徒たちの言葉でありありと語られていました。子どもがいかにか主体的に向き合い、そこに生きているかを感じる素敵な説明会でした。

今回の説明会では、学園から両校に進学した生徒4名が“高等部の紹介者”として学園を訪れてくれました。9年生までとの学校との違い、横浜との違いなどを感じたままに伝えてくれました。

\*シュタイナー学校では、9～12年生を高等部と呼びます。

# インフォメーション

## 公開講座

### 「1年生になるということ」

—シュタイナー教育の目指すもの—

日にち：7月6日（日）

時間：10:00～12:30

講師：森田修（4年生担任）

小林裕子（3年生担任）

参加費：1,000円

場所：霧が丘校舎

## 公開講座

### 「メルヘン論へようこそ3」

日にち：7月2日（水）

時間：10:00～12:00

講師：入間カイ氏

参加費：2,500円

場所：霧が丘校舎

## 学園周辺ぐるっと探訪

日にち：6月29日（日）

時間：8:45～12:00

持ち物：お弁当・水筒・おやつ・

雨具・ビニールシート・子ども用

着替え・帽子・虫よけなど

参加費：無料

集合場所：霧が丘校舎

帰りは十日市場駅までご案内します。

## 2015年度入学説明会

日時：7月19日（土）

[A]14:00～16:00

7月26日（土）

[B]10:00～12:30

9月20日（土）

[A]14:00～16:00

9月27日（土）

[B]10:00～12:30

[A]14:00～16:00

10月4日（土）

[B]10:00～12:30

会場：[A]霧が丘校舎

[B]十日市場校舎

対象：入学を希望される保護者

参加費：無料

※できるだけご両親で参加されることをお勧めします。

内容：

[A]「シュタイナー教育とは」

「教育内容について」

[B]「保護者の学園への関わりについて」

※2015年度に入学をご希望の方は、A、Bの順に両方の回に必ずご出席ください。

両方の回に出席済の方に願書（1,000円）を配付します。

申込み：参加を希望される方は、お名前、連絡先、参加希望日をお書きの上、お申し込みください。

\*お車での来校はご遠慮ください。

\*大人を対象とした内容となります。お子さまはお連れにならないようお願いいたします。

## 茶話会／校内見学会

学園の雰囲気を感じていただけるこの機会に、どうぞお訪ねください。

茶話会（水曜日）

日にち：7月16日・9月24日

時間：10:00～12:00

校内見学会（金曜日）

日時：7月11日 15:00～16:00

週末校内見学会（日曜日）

日時：6月29日 13:00～15:00

参加費：無料

場所：霧が丘校舎

学園にご興味・ご関心のある方はどなたでもお越しください。お子様連れも可です。

※お子様の上履きはご持参ください

## ご寄付ありがとうございます

（順不同・敬称略）

4/21～6/10

加藤洋子、天竜ウッドワーク株式会社、ガリレオ公演、富澤馨、小林真紀子、星の金貨、市村智子、萩原妙子

よこはま夢ファンドを通して

（2/1～4/30）

浅見あき子、鈴木義正

☆皆様からの学園へのご寄付は大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

## お問合せ、お申込み先

### 横浜シュタイナー学園事務局

Tel&Fax: 045-922-3107 e-mail: [gakuen-info@yokohama-steiner.com](mailto:gakuen-info@yokohama-steiner.com)

【会費・ご寄付等お振込先】

郵便振替：00260-0-130702

加入者名：特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園

ゆうちょ銀行：店番029 支店名029店（セーラー店）当座0130702

横浜シュタイナー学園

Newsletter 第72号

2014年6月19日発行

編集：広報の会

発行：NPO法人 横浜シュタイナー学園

<http://yokohama-steiner.com>

〒226-0016 横浜市緑区霧が丘3丁目1-20

TEL/FAX 045-922-3107

※掲載内容の無断転載はお断りします。